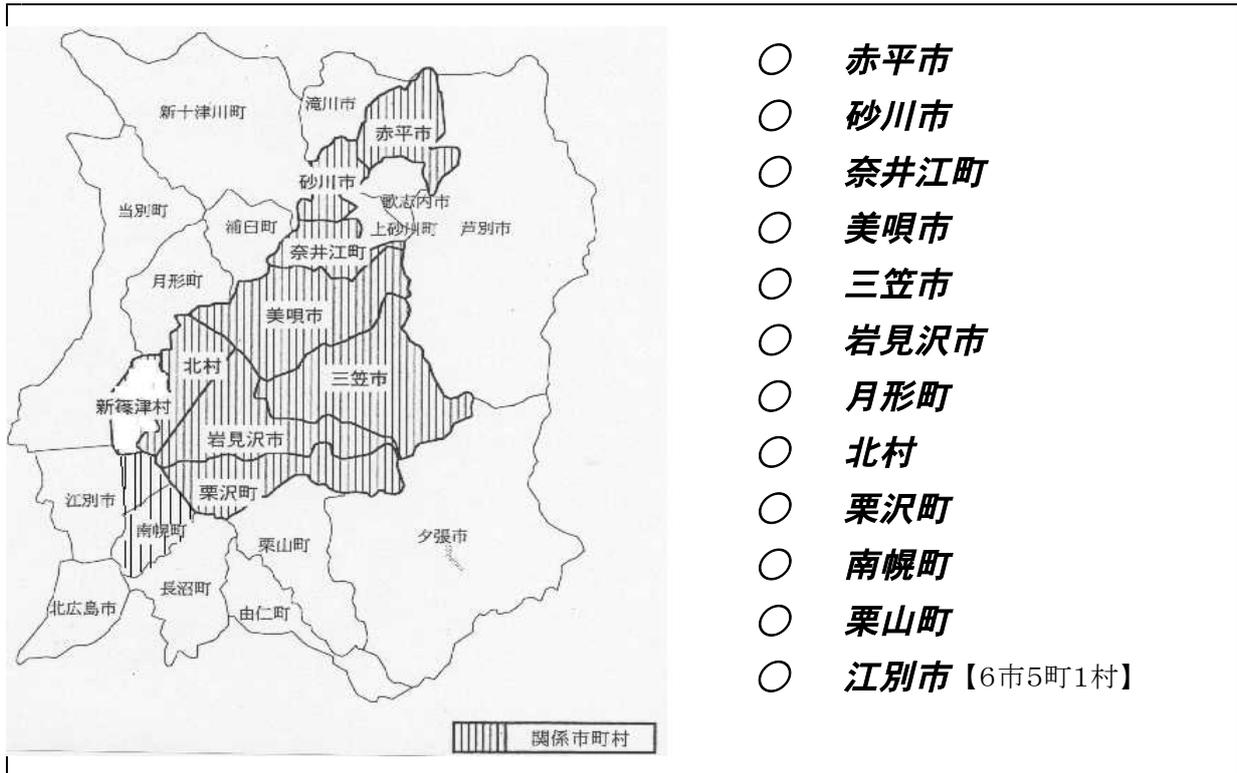


【位置図】



I 水土里ネットの概要

- ・水土里ネット名： ほっかい
- ・理事長名： 眞野 弘
- ・役職員数： 役員 36 名、職員 93 名
- ・住所： 北海道岩見沢市6条西7丁目1番地
- ・連絡先： 電話 0126-22-2400
F A X 0126-22-8012
e-mail sanji@midorinet-hokkai.jp
U R L
- ・受益面積： 33,453 ha
- ・組合員数： 3,777 名
- ・水土里ネット設立の経緯
 - 大正11年 北海土功組合設立
 - 昭和26年 土地改良区へ組織変更
 - 昭和27年 大富士功組合を吸収合併
 - 昭和28年 奈井江水利組合を吸収合併
 - 昭和32年 晩草水利組合と、晩翠・夕張太・中美唄の各土地改良区を吸収合併
 - 昭和33年 西幌土地改良区を吸収合併
 - 昭和35年 三号溜池水利組合を吸収合併

- 昭和36年 聖化美唄土地改良区を吸収合併
- 昭和50年 奈井江水利組合を吸収合併
- 昭和52年 北村土地改良区を吸収合併
- 昭和55年 中小屋・末政揚水機の両水利組合を吸収合併
- 昭和56年 2号川溜池水利組合を吸収合併
- 平成15年 北海、中村・三笠・岩見沢・南岩見沢・栗沢・東栗沢の7土地改良区が合併し、新生「北海土地改良区」が誕生

II 地域の特徴

～地理的概要、産業、経済、歴史、景観、自然環境、伝統文化など～

北海道のほぼ中央に位置する当地区は、6市5町1村に跨り、大雪山系・石狩岳を源とした流れは途中空知川を初め夕張山系からの小河川と合流し、道内一の大河、石狩川となって当地区の西側を日本海に流れ下っている。当地区の相当部分を占める石狩平野は、豊富な水、比較的温暖な気候など自然に恵まれ、水田地帯として全国的にも有数の穀倉地帯である。

大正11年、北海土功組合が設立され、かんがい水路工事などが進められる中で稲作が広がっていた。昭和26年に土地改良区へ組織変更し、その後は、近隣土地改良区との合併を進めながら組織運営基盤の強化を進めるとともに、国営事業をはじめ各種土地改良事業に取り組んできた。

特に、昭和32年に着工した国営総合かんがい排水事業美唄地区は、約20年の歳月をかけて、1万8千haの水田を潤す北海頭首工と80kmにおよぶ北海幹線用水路の改修をはじめとした主要用水路、揚水機場等の増改修が進められ、末端地域の用水不足が解消されるとともに近代化農業の基礎が確立されることとなった。

当地域は、道内有数の稲作生産地帯として、主要産業の重要な位置を占めており、さらなる近代化農業の推進に向けた生産基盤の整備等について、地域農業者からの声が多いことから、昭和54年から国営かんがい排水事業空知中央地区、昭和55年から同事業道央地区に取り組むとともに、ほ場整備をはじめとした多くの道営・団体営事業を進めてきた。

現在、国営かんがい排水事業6地区、道営かんがい排水事業2地区、経営体育成基盤整備事業27地区、畑地帯総合整備事業2地区、中山間地域総合整備事業2地区、ため池等整備事業1地区に取り組んでおり、地域水田農業ビジョンの実現に向けて、農業用水の効率的な維持管理対策と水田の汎用化等を進めている。

また、平成15年に4月に7水土里ネットが合併して、新生「北海土地改良区」がスタートしたが、これを契機に、12市町村に跨る33,000haを超える広範囲の地区を管理する水土里ネットとして、一層の組織運営基盤の強化を図るとともに、関係市町村はもとより関係機関・団体等と連携を図りながら、地域農業の振興・発展に役職員一丸となって取り組んでいる。

Ⅲ 21創造運動の実績

平成15年度に実施した21創造運動の実績(複数可)

～21創造運動の目標を達成するためどのような活動をしたか、また、活動の手法や効果、活動の取り組みの経緯(継続期間)、活動に係る経費(金額)とその財源、地域住民の評価等の点も含めてアピールしたいことがあれば各活動毎に記述してください～

◇活動名： 地域住民等と連携した環境・景観保全活動

◇活動の内容

空知中央地区地域用水対策協議会(事務局)が中心となり、地域住民等の参加・協力を得て、用水路沿いにアジサイやハーブの植栽、桜の植樹などを行い、環境、景観保全活動に取り組んでいる。

特に、一般市民にも農業・農村や農地・農業用水の役割等を伝えるため、地域住民らの積極的な参加を呼びかけながら、広範囲に渡って活動を展開している。

○奈井江町でハーブの植栽(15年4月29日と8月21日の2日間)

奈井江町の京極地区の幹線用水路沿い700mにハーブ2種類(アップルミント、タイム)、4500株を植栽。奈井江グリーン少年団、教諭、京極地区の地域住民、奈井江中学校、奈井江町本町婦人会、関係者など2日間で延べ110名が参加している。特に、ハーブは、害虫防除としての効果もある。

○岩見沢市でハーブの植栽(15年5月3日)

岩見沢市峰延地区の幹線用水路沿い910mにハーブ3種類(アップル、スペア、ブラックミント)、4500株を植栽。支線組合、関係者など60名が参加している。

○赤平市でアジサイの植栽(15年6月14日)

赤平市の住吉地区の北海幹線用水路沿い120mにアジサイ3種類、195本を植栽。赤平青少年育成会や住吉地区の地域住民、老人クラブ、関係者など100名参加している。

○美唄市で桜を植樹(15年9月6日)

美唄市光珠内地区の光珠内調整池敷きに100本のエゾヤマ桜を植樹。光珠内中央小学校の児童と先生、老人クラブ、組合員、関係者など100名が参加している。

○栗沢町で桜を植樹(15年10月11日)

栗沢町の幹線用水路沿いにエゾヤマ桜40本を植樹。栗沢グリーン少年団とその父母、関係者など70名が参加

◇活動名： 農業水利施設見学会の実施

◇活動の内容

空知中央地区地域用水対策協議会(事務局)が中心となり、総合学習の一環、あるいは夏休みや休日に小中学生の参加を募集して、農業水利施設見学会を実施。施設の役割や農業用水等の多面的機能、水土里ネットの役割などを子供たちに紹介している。

○栗沢町の小学生34名が参加(15年8月6日) ※参加者を募集

ダムや親水公園、また、農業用水を使っでの防火訓練など見学

○岩見沢市立北真小学校5年生43名が参加(16年6月7日) ※総合学習 授業3、4時間目

北海頭首工、北海幹線用水路、放水施設、サイフォンなど見学

○赤平市の小中学生28名が参加(16年6月26日) ※参加者を募集

北海頭首工、北海幹線用水路、親水公園、調整池、川横断サイフォン、揚水機場、除塵機など見学

◇活動名：地域住民等と連携したワークショップ活動

◇活動の内容

地域住民等の参加を得て、現在、3地区でワークショップを開催。地域資源を活かした地域活性化に向けた話し合いや、自然環境・水質保全活動に取り組んでいる。

○美唄市中村地区のワークショップ活動

「足元にある郷土の良さを知り、それを活性化させよう」と、多様な農村資源や農業水利施設をキーワードに地域活性化に向けた取組や環境保全対策など、地域住民の参加を得て、ワークショップ活動を進めている。これまで、当地域の特産品「中村とりめし」をPRするため、同地区の全戸にハンドメイドの風見鶏を設置するほか、同地区の菱沼周辺の生きもの調査や水質調査、カヌー体験などを実施している。

○岩見沢市の岩幹ワークショップ活動

岩見沢市街地を流下する岩見沢幹線用水路の管水路工事に伴い、水路敷地の利活用について、地域沿線住民の参加を得てワークショップを15年度に3回開催。

特に、水路敷地の整備内容等(花壇の造成、芝張り、植樹、工作物等)については、地域住民自らの管理が可能かどうかの検討を行って、整備を進めている。

○岩見沢市の鯉沼ワークショップ活動

岩見沢市内の鯉沼の貴重な動植物を保全する取り組みなど環境整備に向けて、農家や地域住民の参加を得てワークショップを開催し、話し合いを進めている。最初の取り組みでは、地域住民と関係者で同沼周辺のゴミ拾いを実施し、現在は、水質の改善に向け農業用水を同沼に導水するなど、鯉沼の保全方法などについて、地域住民との話し合いを進めている。

◇活動名：農業水利施設の開放

◇活動の内容

○ダムを開放し、一般市民が鯉釣り

農業用水と大自然に触れてもらおうと、平成15年8月31日、当水土里ネットが管理する宝池ダムで、町内会等と連携してイベント「宝池鯉祭り」を開催し、親子連れなど一般市民50人が参加した。パンフレット等の配布やアンケート調査を行い、農業・農村や農業用水の多面的機能をPRしたほか、参加者は、町内会が同ダムに放流した鯉釣りや堤体で焼き肉を楽しんだ。

◇活動名：地域イベントへの参加

◇活動の内容

地域のイベントに積極的に参加し、農業水利施設の役割や農業用水の多面的機能、水土里ネットの仕事などを紹介したパネル展等を実施。

○15年6月21日 専修大学北海道短期大学学校祭

地域用水パネル展(農業用水の多面的機能をPR)やアンケート調査など

○15年8月2日 三笠市「くらしと農畜産物フェア」

地域用水パネル展(農業用水の多面的機能をPR)やアンケート調査など

○15年8月16、17日 北村「きたむら田舎フェスティバル」

地域用水パネル展(農業用水の多面的機能をPR)やアンケート調査など

○15年8月23、24日 栗沢町「くりさわ農業祭」

地域用水パネル展(農業用水の多面的機能をPR)やアンケート調査など

◇活動名: 総合学習等への全面協力

◇活動の内容

○小学校の総合学習「田んぼの学校」を全面的に協力し、支援

平成14年から北村立北村小学校の総合学習「田んぼの学校」を、当水土里ネットが中心となった地域用水対策協議会が支援。地元農家の協力を得ながら、田植えから稲刈り、収穫まで協力し、農業用水の役割や水土里ネットの仕事などもPRしている。15年度は、5月13日代掻き学習、5月20日田植え学習、7月16日稲の生育と田んぼの生きもの学習、7月22日稲の生育と農業用水の役割等についての室内学習、10月8日稲刈り学習、10月31日水田総合学習発表会に協力。

○小学校の総合学習「農業水利施設見学」に協力(16年6月7日) ※再掲

岩見沢市立北真小学校5年生の総合学習「農業水利施設見学」で、水土里ネット職員が43名の児童を北海道首工、北海幹線用水路、放水施設、サイフォンなどに案内。施設の役割や農業用水等の多面的機能、水土里ネットの役割などを子供たちに紹介した。

○小学校の総合学習「田んぼの写生会」に協力(平成14年8月29日)

岩見沢市立南小学校1年生73名の総合学習「田んぼの写生会」に協力。水土里ネットが同小学校に企画を提案し、栗沢町のクラインガルテン学習ほ場に子供たちを案内し、写生会を通じて、田んぼやその住む生きものなどに触れてもらい、農業の大切さなどを紹介した。

◇活動名: 農業振興を含めた本来業務に関する先駆的な取組

◇活動の内容

○既設暗渠を利用した地下かんがいシステムの推進

田畑輪換や乾田直播に対応する新たなかんがいシステムとして、既設暗渠を利用した地下かんがいシステムの試験・検証を進めている。既存の暗渠管を利用するため、一部加工コストに留まり、排水という本来の目的に加えてかんがい機能も備え、地域農業者の期待が大きい。

さらに、暗渠の機能を維持していくためには、定期的な清掃が必要だが、かんがいで管に直接水を流し込むことで、一気に溜まった土砂を流し出すことで清掃の役割も発揮され、地下かんがいを行うことで、暗渠管が従来の排水機能のほか、かんがい、清掃と3つの役割を果たすことになる。

○減農薬への取組

食の安全・安心に向けた減農薬の取組と併せ、雑草の軽減、景観づくりで、用水路沿いや畦畔にハーブを植える取組を進めている。

特にハーブは、水稻害虫のカメムシなどの防除効果もあり、減農薬米生産に取り組む農家を支援している。

・15年4月29日と8月21日の2日間(再掲)

奈井江町の京極地区の幹線用水路沿い700mにハーブ2種類(アップルミント、タイム)、4500株を植栽。奈井江グリーン少年団、教諭、京極地区の地域住民、奈井江中学校、奈井江町本町婦人会、NPO法人日本一直線道まちづくり研究会、関係者など2日間で延べ110名が参加している。

・15年5月3日(再掲)

岩見沢市峰延地区の幹線用水路沿い910mにハーブ3種類(アップル、スペア、ブラックミント)、4500株を植栽。支線組合、関係者など60名が参加している。

◇活動名：北海道遺産への登録に向けたPR活動

◇活動の内容

○全道一の長さを誇る「北海幹線用水路」の北海道遺産登録へのPR活動

北海道遺産とは、北海道の豊かな自然やそこに住む人々にとって築き上げられてきた文化や産業、生活など様々な価値の中から、北海道独自の視点と道民参加で選ぶ、次世代に引き継ぎたい有形・無形の財産。北海道では、これら北海道遺産を掘り起こし、守り育て、引き継いでいくことを通じて、新しい魅力を持った北海道づくりを進める北海道遺産構想を進めている。

このことから、当水土里ネットが管理する、全道一の長さを誇る農業用水路「北海幹線用水路」を北海道遺産に登録してもらおうと、水土里ネットをはじめ関係者が、「北海幹線を歩こう会」と称して水路沿いを歩くなど、PRに努めている。

◇活動名：啓発普及・広報活動

◇活動の内容

○パンフレット「水は地域の資源」を作成し、広く配布

当水土里ネットが中心となった地域用水対策協議会で、農業用水や農業水利施設の役割などをPRしたパンフレット「水は地域の資源」を作成し、イベントの参加等を通じて広く配布している。

○スノーメッセージで水土里ネットをPR

15年3月、美唄市の道央自動車道沿いの丘陵地雪原に、融雪剤で「水土里ネットほっかい」と描き、スノーメッセージでPR。

○アンケート調査を実施

農業用水の多面的な役割などの認識度や把握し、今後の活動の参考にするため、イベントに参加した際に地域用水のアンケート調査を実施。

○広報誌「水土里ネットだより」の発行

水土里ネットだよりを年2回発行し、組合員の創造運動に対する理解の浸透に努めている。

○ふるさと田んぼと水子ども絵画展の作品を募集

小学校の総合学習への協力や農業水利施設見学会などを通じて、子ども絵画展の作品募集を行い、地域の子供たちや学校との一層の交流の努めている。

IV 21創造運動の取り組み体制

1 水土里ネット役員の21創造運動に対する意識

■水土里ネット役員の意識が改革され、運動を積極的に推進している

□水土里ネット役員の意識が徐々に変わり始めている

□まだ変わっていない

チェックした項目に対する具体的内容を記載

..地域住民と連携した景観保全活動やワークショップ活動は、広範囲に渡って展開されており、それぞれの地域の役員や総代、支線組合の役員等が積極的に地域住民の参加を求め、年々参加者が増加している。(参加者数の変遷～Vの3で記載)

..また、地域水田農業ビジョンの実現に向けて、田畑輪換や乾田直播に対応する新たなかんがいシステムとして、既設暗渠を利用した地下かんがいシステムの試験・検証を役員等が中心となって進めるなど、農業振興を含めた本来業務の先駆的な取組を展開している。

..このように、平成15年4月の7水土里ネットの合併を契機に、12市町村の33,000haを超える広範囲の地区を管理する水土里ネットとして、一層の組織運営基盤の強化を図るとともに、関係市町村はもとより関係機関・団体と連携を図りながら、地域の要請に応える新たな役割の発揮に向けて役職員一丸となって創造運動等に取り組んでいる。

2 水土里ネット職員の21創造運動に対する意識

■水土里ネット職員の意識が改革され、運動に積極的に取り組んでいる

□水土里ネット職員の意識が徐々に変わり始めている

□まだ変わっていない

チェックした項目に対する具体的内容を記載

本所と6事業所で総勢93名の職身体制であり、特に、創造運動に関する企画立案については、総務課と工務課が中心となって進めている。

..活動に際しては各部署が連携し、特に、活動範囲が広いことから、関係機関・団体や地域住民との連絡調整など、事業所の職員を含め全職員が一丸となって対応している。

..特に、平成15年4月の7水土里ネットの合併を契機に、12市町村の33,000haを超える広範囲の地区を管理する水土里ネットとして、一層の組織運営基盤の強化を図るとともに、関係市町村はもとより関係機関・団体と連携を図りながら、地域の要請に応える新たな役割の発揮に向けて役職員一丸となって創造運動等に取り組んでいる。

3 21創造運動の担当部署について

■21創造運動を実践していくため水土里ネット内に担当部署を設けている

→ 担当部局: 企画立案 総務課、工務課.....(14人)

□特に担当部署は設けていないが、組織として取り組んでいる

□役員が単独で行っている→ □運動の後継者の育成を行っている
□特に後継者の育成を行っていない

■その他: 活動は全職員が対応.....

4 21創造運動のリーダーがいる場合はその方の役職等を記載(複数人いる場合は全て記載)

リーダーの役職等: 理事長、副理事長、専務、参事、事務部長、技術部長.....

5 21創造運動の水土里ネット組合員への浸透度

■水土里ネット組合員に徐々に浸透している

□まだ変わっていない

□その他:

V 21創造運動の意味性

1 21創造運動に取り組むに当たって掲げた理念

～21創造運動を通し「水土里ネットがどうなっていくべきか」思いの丈を記述してください～

誇るべき北海道の「水」「土」「里」を次の世代に健全な姿で継承するため、「水」「土」「里」を守る組織としての役割を再認識し、地域住民や道民に水土里ネットの役割等について理解を求め、道民が期待する農業・農村の多面的機能を支える組織を目指して運動を展開している。

水土里ネットの機能・役割を再認識し(内部運動)、地域へ伝える(外部運動)ため、次に掲げる活動を展開していく。

①地域資源の重要性について地域住民等の共感を得る。

②地域資源を地域とともに保全・管理する。

③地域資源を核とした地域づくりに取り組む。

また、農村空間は、美しい緑あふれる自然や日本の原風景、地域の文化等を形成・保全しており、訪れる人々の心と体をいやし、のどかな時間を形成している。

特に近年は、地域に根ざした食文化を形成しようというスローフードが注目を集め、さらには、経済的な「物の豊かさ」から生活のゆとり・やすらぎなど「心の豊かさ」へと国民の価値観が変化し、ライフスタイルも豊かな自然の中で様々な余暇を楽しむ人たちが増加するなどスローライフを求める傾向が強くなってきた。

これらのことから、国民の求めるスローフード、スローライフを創造することも農業農村整備事業の役割の一つであり、21世紀土地改良区創造運動の目標・理念でもある。

○運動を開始した時期：

従来より、関係機関・団体と連携して、地域活性化に向けた取組を進めてきたが、特に、平成10年に地域用水機能増進事業がスタートし、空知中央地区地域用水対策協議会を設置してからは、農業用水の多面的機能の発揮に向けた各種活動を積極的に推進。また、国営造成施設管理体制整備促進事業(管理体制整備型)が平成12年度にスタートしてからは、同事業等を活用しながら、創造運動の一層の推進を図ってきた。

2 この理念はどのレベルの会議等で決定されたか

- 水土里ネット総(代)会 事業計画に活動を盛り込み、総代会で承認
- 水土里ネット理事会
- 水土里ネット内部

3 21創造運動に対する地域住民等の評価(複数回答可)

- 地域住民からは、水土里ネットの存在・役割が理解され上々の評価を得ている
- 21創造運動により近隣の地域へ波及的な効果もあった

(具体的に: イベントに参加し、アンケート調査を行っているが、水土里ネット「土地改良区」の知名

度や農業用水に対する認識度が年々上がってきている。また、地域住民等と連携した環境・景観保全活動やワークショップ活動では地域住民等の参加者が増え、活動の輪が徐々に広がってきている。)

※アンケート調査結果での土地改良区の知名度等

設 問	回 答	H13年度	H14年度	H15年度
土地改良区の知名度	知っている	63%	68%	71%
	知らない	37%	32%	29%
農業用水路の知名度	知っている	75%	78%	85%
	知らない	25%	22%	15%
農業用水路の認識度	認識している	38%	46%	55%
	なんとなく認識している	37%	38%	35%
	知らない	25%	16%	10%

※環境・景観保全活動の参加者

活 動	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
赤平市アジサイ植栽	—	北海幹線用水路	北海幹線用水路	北海幹線用水路
地域住民(町内会)	—	35名	25名	30名
育成会(子供たち)	—	—	35名	40名
関係団体等(組合員含)	—	20名	40名	40名
計	—	55名	100名	110名
奈井江町ハーブ植栽	—	—	京極幹線用水路	京極幹線用水路
地域住民(町内会)	—	—	20名	30名
NPO(日本一直線道研)	—	—	25名	20名
少年団(子供たち)	—	—	30名	20名
関係団体等(組合員含)	—	—	35名	50名
計	—	—	110名	120名
美唄市ハーブ植栽	—	茶志内幹線用水路	—	—
地域住民(町内会)	—	45名	—	—
関係団体等(組合員含)	—	25名	—	—
計	—	70名	—	—
美唄市サクラ植樹	—	—	光珠内調整値	9月6日に実施

地域住民(町内会)	—	—	50名	—
小学校(子供たち)	—	—	10名	—
関係団体等(組合員含)	—	—	40名	—
計	—	—	100名	—
岩見沢市ハーブ植栽	—	—	大願幹線用水路	大願幹線用水路
地域住民(町内会)	—	—	30名	35名
関係団体等(組合員含)	—	—	30名	25名
計	—	—	60名	60名
栗沢町サクラ植樹	北海幹線用水路	北海幹線用水路	北海幹線用水路	10月中旬予定
少年団(子供たち)	30名	35名	35名	—
父母	10名	15名	15名	—
関係団体等(組合員含)	10名	10名	20名	—
計	50名	60名	70名	—
総 計	50名	185名	440名	

※ワークショップ活動の参加者

活 動	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
美唄市				
なかむらワーク	3回実施	3回実施	2回実施	8月7日実施予定
地域住民	88名	72名	83名	—
関係団体等(組合員含)	48名	54名	58名	—
計	136名	126名	141名	—
美唄市				
峰延ワーク	—	—	—	今年度実施予定
地域住民	—	—	—	—
関係団体等(組合員含)	—	—	—	—
計	—	—	—	—
岩見沢市				
岩幹ワーク	—	—	3回実施	今年度も実施予定
地域住民	—	—	54名	—
関係団体等(組合員含)	—	—	20名	—
計	—	—	74名	—

岩見沢市				
鯉沼ワーク	—	—	3回実施	今年度も実施予定
地域住民	—	—	57名	—
関係団体等(組合員含)	—	—	23名	—
計	—	—	80名	—
岩見沢市				
南区ワーク	—	—	—	今年度実施予定
地域住民	—	—	—	—
関係団体等(組合員含)	—	—	—	—
計	—	—	—	—

まだ変わっていない

その他:

4 平成15年度の各種活動への参加者 ～Ⅲの「21創造運動の実績」について記載～

地域住民や児童、生徒

地域住民のほか市町村外からの参加者も多数

イベントは他団体()との共催なのでよく分からない

特に調べていない

その他: 用水路沿いのハーブの植栽などでは、一般の地域住民のほか、水土里ネット役職員や組合員、関係団体等の家族も参加

5 持続可能な21創造運動への取り組み姿勢(無理のない着実な取り組み)(複数回答可)

○財政状況

自主財源 他の機関からの支援(補助事業等)

予算書に活動費の項目立てをしている。(理事会の議題に取り上げている)

その他:

○関係機関・関係者等との調整(合意形成)

関係機関もしくは関係者等と十分な調整を経たうえで取り組みを開始した

先ず水土里ネットで取り組みをはじめ、その後関係機関もしくは関係者との調整を行った

水土里ネット独自で取り組み、関係機関・関係者等との調整は特に行っていない。

その他:

6 農業振興を含めた本来業務にかかる活動に取り組んでいますか。(複数回答可)

- はい → 土地利用調整 水利用調整 情報収集及び提供 直売所等への関与
- 営農支援 (実証栽培 土づくり 環境保全型農業の推進)
- 営農指導 その他: _____
- その他: _____

7 事業や運動などで、他に先駆けて取り組んだものはありますか。

- はい(具体的な内容を記載)
- いいえ

先駆的な取り組みの具体的な内容:

田畑輪換や乾田直播に対応する新たなかんがいシステムとして、既設暗渠を利用した地下かんがいシステムの試験・検証を進めている。特に、田畑輪換では大豆や小麦等の栽培で収量がアップしているほか、乾田直播では発芽の促進が促されるなど、大きな効果が実証され、既存の暗渠管を利用するため、一部加工コストに留まり、排水という本来の目的に加えてかんがい機能も備えることから、地域農業者の期待が大きい。

また、食の安全・安心に向けた減農薬の取組と併せ、雑草の軽減、景観づくりで、用水路沿いや畦畔にハーブを植える取組を進めている。特にハーブは、水稻害虫のカメムシなどの防除効果もあり、減農薬米生産に取り組む農家を支援している。

8 地域の歴史(先人達の偉業等)や文化などを伝えるような取り組みをしていますか。

- また、水土里ネットを含め他に歴史や文化を伝える人材はいますか。
- (取り組まれている場合は次の内容について記載)

1) 取り組み内容

土地改良区創立から10年、30年、40年、60年、80年の節目に記念誌を発行し、地域の開拓の歴史や先人たちの偉業、これまでの土地改良事業の取組等を紹介している。

美唄市中村地区のワークショップ活動では、明治の開拓当時に「客をもてなすご馳走」として今に伝わる「とりめし」を広くPRする活動に取り組んでいる。

また当水土里ネットが管理する、全道一の長さを誇る農業用水路「北海幹線用水路」を北海道遺産に登録してもらい後世に伝えていこうと、水土里ネットをはじめ関係者が、「北海幹線を歩こう会」と称して水路沿いを歩くなど、PRに努めている。

2) 人材活用(どのような人材を活用しているか記述)

前述した美唄市中村地区の「とりめし」を普及に向けて、JAや水土里ネットが支援して、同地区の主婦で構成する「中村えぶろん倶楽部」を結成。札幌市をはじめ各地のイベント等に積極的に参加し、広く「とりめし」をPRしている。

VI 21創造運動の継続性・発展性

1 IIIの「21創造運動の実績」で述べた活動について、活動を始めた時期及び今後の取組予定

・活動名： 地域住民等と連携した環境・景観保全活動

・取組開始時期及び今後の予定： 平成11年から実施し、平成15年は5市町で延べ630名の参加を得てハーブの植栽などを行った。今後も、関係市町村等と連携しながら行政単位で計画的に取り組んでいくこととしているが、点から線へと活動の輪を広げていきたいと考えている。地域住民等の参加についてはボランティアをお願いしているが、苗の購入については、現在、地域用水機能増進事業を活用しているが、地域資源の保全・管理、地域資源を核とした地域づくりのためにも、これらの事業の一層の推進が望まれる。

・活動名： 地域住民等と連携したワークショップ活動

・取組開始時期及び今後の予定： 平成7年から実施しているが、ワークショップ活動を継続的に実施していくためには地域リーダーとの連携が不可欠。今後も活動範囲を広げるとともに、地域の開拓(土地改良)の歴史などを今後のテーマに上げ、まちやむら、農業、土地改良区などの形成過程や先達の苦勞・努力を振り返り、ふるさとを守る機運の一層醸成を図っていきたいと考えている。

・活動名： 農業水利施設の開放

・取組開始時期及び今後の予定： 平成14年から実施している。今後も地域住民等の積極的な参加を呼びかけ、農業用水、農業水利施設に触れてもらう取組を進めていくこととしている。

・活動名： 地域イベントへの参加

・取組開始時期及び今後の予定： 平成11年から実施しているが、イベントが土・日・祭日に行われるため、職員が苦慮しているところである。今後も対応する職員のローテーションなどを考慮しながら計画的に取り組んでいくこととしている。

・活動名： 総合学習への協力

・取組開始時期及び今後の予定： 平成12年から実施している。学校等の要請にできるだけ対応し、「田んぼの学校」や農業水利施設見学会を継続して行っていくほか、今後は、地域の開拓の歴史など、水土里ネットから情報を発信し、学習内容について学校に提案していきたいと考えている。(当水土里ネットの地区内である美唄市峰延地区が「北海道のため池の発祥の地」であり、これを総合学習の題材に取り入れてもらうよう情報発信をしていきたいと考えている。)

・活動名： 農業振興を含めた本来業務に関する先駆的な取組

・取組開始時期及び今後の予定： 既設暗渠を利用した地下かんがいシステムについては、平成8年頃から検討を始め、水土里ネットが中心となって、関係機関・団体と連携しながら試験・検証を進めてきた。特に、田畑輪換では大豆や小麦等の栽培で収量がアップしているほか、乾田直播では発芽の促進が促されるなど、大きな効果が実証されてきた。今後は、本格的な実用化に向け、関係機関等と

連携を図りながら、地域水田農業ビジョンの実現のためにも一層推進していくこととしている。

また、減農薬の取組に向けたハーブの植栽については、平成10年頃から美唄市を中心に徐々に進められてきた。今後とも、水稻カメムシの防除効果等を検証しながら、継続的に取り組んでいくこととしている。最近では、地域住民等の要望で行政の道路関係部局も道路沿いにハーブを植栽するなど、多方面に活動が広がってきている。

・活動名：北海道遺産への登録に向けたPR活動

・取組開始時期及び今後の予定：平成14年から実施しているが、北海道遺産の登録に向けて、一層のPRに努めていくこととしている。

・活動名：啓発普及・広報活動

・取組開始時期及び今後の予定：従来より継続的に取り組んでいるが、今後は、地域資源(農地、農業用水等)の保全などに向けた一般市民等の理解を得るために、関係機関・団体等と連携を図りながらこれまで以上の活動に取り組んでいきたいと考えている。

2 21創造運動の取り組みにあたっての工夫

～21創造運動(活動)を更に発展・拡充するために取り組んだ内容について記載～

水土里ネットだけで創造運動に取り組むことは、財政的にも人的にも負担が大きい。このことから、関係市町村をはじめJAなど農業団体、また、北海道開発局、北海道と緊密な連携を図りながら、開かれた運動を展開している。

また、毎年、年間計画を樹立し、理事会、総代会等で承認を得て、計画的な運動を展開しているとともに、役員をはじめ総代、組合員にも運動展開についての情報を提供し、理解の浸透を図っている。

3 目標及び目標達成に向けた取り組み ～具体的に、又計画がきまっていれば年次計画を～

用水路沿い等へのハーブの植栽は、水稻害虫のカメムシの防除効果もあり、減農薬米の促進にもつながっていることから、各地から問い合わせがある。今後、効果も検証しながら、関係機関・団体等と連携を図りながら継続的に取り組んでいくこととしている。

ワークショップ活動では、その活動の輪を広げて、地域住民の理解を得ながら、地域資源の保全・管理、地域資源を核とした地域づくりを進めていくこととしている。また、地域の開拓(土地改良)の歴史などを今後のテーマに上げ、まちやむら、農業、土地改良区などの形成過程を学びながら、先達の苦労・努力を振り返るとともに、ふるさとを守る気持ちを一層醸成していきたいと考えている。

既設の暗渠を活用した地下かんがいシステムの推進では、試験・検証も進み、今後、関係機関・団体等と連携を図りながら実用化に向けた取組を進めていく。

「北海幹線用水路」の北海道遺産への登録に向けては、継続的にPRしていく。

○この目標はどのレベルの会議等で決定されたか

■水土里ネット総(代)会

■水土里ネット理事会

□水土里ネット内部

■その他: 地域用水対策協議会でも今後の活動計画等について協議

4 21創造運動を実践するための水土里ネットを核とした活動母体がある場合

・組織名(団体名): 「水土里ネットほっかい」が事務局である「空知中央地区地域用水対策協議会」
および「北海地区国営造成施設管理体制整備促進事業推進協議会」の活
動と連携

・主な活動内容: 環境・景観保全活動、ワークショップ活動、田んぼの学校等

5 21創造運動の実践により水土里ネットにもたらされたもの(複数回答可)

■一般住民からの問い合わせ等が増えた

□水土里ネットへの就職希望者(問い合わせ)が増えた

■自治会等地域の各種会議・会合等の案内が増えた

■行政機関から各種委員会等の委員の依頼、会議の案内が増えた

■地域住民の水路の草刈り等の作業参加者が増えてきた

□組合員の賦役の参加率が向上した

□以前と変わっていない

□その他:

VII 21創造運動の連携性

1 関係機関との連携(()内の1から8に ○ をつけてください。複数回答可)

関係機関名	連携の状況	連携の内容
・町内会等自治会	(① 2 3 4)	(5 ⑥ 7 8) ←
・NPO	(1 ② 3 4)	(⑤ 6 7 8)
・教育機関	(① 2 3 4)	(⑤ 6 7 8)
・マスコミ	(1 ② 3 4)	(⑤ 6 7 8)
・農協	(1 ② 3 4)	(⑤ 6 7 8)
・市町村	(① 2 3 4)	(⑤ 6 7 8)
・都道府県水土里ネット	(1 ② 3 4)	(5 ⑥ 7 8)
・都道府県	(① 2 3 4)	(5 ⑥ ⑦ 8)
・国	(① 2 3 4)	(5 ⑥ ⑦ 8)
・その他(研究機関)	(1 ② 3 4)	(5 ⑥ 7 8)

◇ **連携の状況**

1. 積極的に連携できた
 2. 一定の協力が得られた
 3. 今回は連携出来なかったが
 今後は可能性がある
 4. 全くない

◇ **連携の内容**

5. 共催、協賛、後援
 6. 活動計画樹立の助言を得る
 7. 人材派遣
 8. 資金援助

2 21創造運動がマスコミに取り上げられたことがありますか(新聞、TV、ラジオ等)

■ある (日本農業新聞、読売新聞、北海道新聞で多数)

①マスコミに取り上げられるためにどんな努力をしましたか。

...情報提供及び記事の投げ込みを行っている。

②その結果マスコミとのパイプは出来ましたか。

...多くの活動について、記事が掲載されている。

- 資料等提供したが取り上げられなかった
 □ない → □接触の方法がわからず働きかけが出来なかった
 □これといった働きかけはしていない

□その他:

3 21創造運動(各種活動)の情報提供方法(複数回答可)

□水土里ネットでホームページを開設している

■都道府県水土里ネットのホームページに掲載している

■定期的に情報誌を作成している

□水土里ネット事務所等の掲示板に貼りだしている

□特に情報発信はしていない

□その他:

VIII その他特記事項

○最後に21創造運動の推進に当たりご意見ご要望があれば記述してください。

…農村の地域資源(農地・農業用水等)が国民の共通の財産であるという理解を得るためにも、継続的な創造運動の推進が不可欠である。

…現在は、地域用水機能増進事業や国営造成施設管理体制整備促進事業(管理体制整備型)などの事業も活用しながら、①地域資源の重要性について共感を得る②地域資源を地域とともに保全・管理する③地域資源を核とした地域づくりに取り組むーを基本的な目標に掲げ、創造運動を進めているが、この運動を支援する事業制度の継続が必要である。

IX その他

○中央選考委員会で受賞候補の水土里ネット(都道府県水土里ネットを含む)自ら説明を希望する場合は、発表者の氏名等記載下さい。

発表者氏名 所属・職名

発表者氏名 所属・職名

